

特定非営利活動法人 移動支援 Rera



2019 年度 事業報告書

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

《事業報告書概要》

0. 団体概要	2
I. 移動困難な住民の送迎支援活動	4
II. 福祉有償運送事業	11
III. 情報収集・調査・情報発信事業	11
IV. 住民同士の交流・親睦事業	13
V. その他の事業	13
VI. 運営に関する報告	13



団体概要

【特定非営利活動法人移動支援 Rera 定款第 3 条】

この法人は、移動困難な住民に対して、送迎活動等のサポート事業を行うことにより、生活する上で必要不可欠な移動手段を確保し、彼らの健全な生活の維持に寄与することを目的とする。

団体のあゆみ

- | | | |
|--------|----------|--|
| 2011 年 | 3 月 11 日 | 東日本大震災発災 |
| | 3 月 15 日 | NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センターが宮城県石巻市入り
被災障害者の支援を行いつつ瓦礫撤去、避難所設営、物資整理等に協力。 |
| | 4 月 8 日 | 現地支援活動団体名を『災害移動支援ボランティア Rera』と決定
活動内容を「移動困難な被災住民の送迎」に集中させる。 |
| 2012 年 | 4 月 1 日 | 運営主体が石巻地区の住民ボランティアに移行
行政・民間連携による『石巻地区災害移動支援連絡会』開催（～翌年 3 月） |
| 2013 年 | 2 月 15 日 | 宮城県認証の『NPO 法人移動支援 Rera』設立
地域住民主体の団体として移動支援活動を継続。 |



◆活動開始から 2020 年 3 月末までのデータ

累積送迎人数（2011 年 5 月～）		<u>173,474 名</u>
送迎名簿登録者数（2011 年 7 月～）		<u>1,688 名</u>
車両総走行距離（計算値含む）		<u>約 188 万 km</u> (地球約 47 周)
レラメイト登録者数		<u>408 名</u>

移動支援 Rera の目指す社会

『移動手段を持たず外出できない住民が、送迎支援や助け合い、公共交通など、それぞれに適した方法で外出手段を得ることにより、心身の健康維持や生きがいつくりなどにつながり、健全で心豊かな生活を送ることができる社会』

2019 年度事業 背景と活動方針（2019 年度事業計画書より）

東日本大震災から 8 年が過ぎ、9 年目を迎えた石巻。

国の定めた大きな指針は、「復興期間」を 10 年としており、被災地での活動を支えてきた補助金や助成金を含むさまざまな支援体制は、残り 2 年で大幅縮小されることが予測されている。

“災害の影響”と“平時からの問題”が混在している石巻地域で、住民に「いつまでも継続してほしい」と要望される当団体の移動支援活動を、「復興期間」終了後も安定して継続させるには、活動基盤の安定している「復興期間」内に、今後に向けた持続性の高い活動の仕組みを構築することが必須となる。

2019 年度の活動は、これまで行ってきた送迎事業を安定的に継続することと合わせて、これまでよりも「仕組みづくり」に重点を置いた活動を行う。

必要性が高く、移動困難な住民の暮らしの質向上に密接に関わる事業に集中的に取り組みながら、未来に向けた「新たな送迎の仕組み」を構築するための、調査・研究、連携、自家用有償運送との両輪の検討などに力を注ぐ。

事業報告

I. 移動困難な住民の送迎支援活動

《I の事業に要した費用》…23,064 千円



I -1. 【移動困難な住民の送迎】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	日平均
送迎人数	1,361	1,166	1,253	1,331	1,120	1,121	1,333	1,284	1,204	1,098	1,065	1,173	14,509	1,209	53
送迎回数	1,073	956	1,009	1,091	883	884	1,101	1,029	963	919	860	970	11,738	978	43
スタッフ数	177	172	184	195	170	171	224	221	187	199	192	220	2,312	193	8.5

【活動実績】

《実施期間》

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日のうち、日曜、元日、研修、総会等を除く毎日。

(年末年始、お盆、ゴールデンウィーク期間は一部透析送迎のみ。)

《実施内容》

- ◆ 送迎対象者…公共交通による移動が困難で、家族などが送迎できず、高額な交通費の支払いが経済的に困難な住民。
- ◆ 送迎範囲…石巻市・東松島市・女川町の住民。送迎の利用上限は基本的に週 2 回まで。
- ◆ 送迎形態…道路運送法上「登録を要さない」無償の範囲内として、送迎にかかる実費程度として、2km ごとに 100 円を『協力費』として利用者をお願いした。
- ◆ 利用希望者は『同意書』『申告書』を団体へ提出。団体は名簿登録して管理。
- ◆ 2017 年 1 月より、新たな送迎利用者との支え合いの会員制度『レラメイト』を開始している。
- ◆ 年間合計のべ 14,509 名、月平均 1,209 名の送迎を行った。
- ◆ 団体の中心的な活動であり、2019 年度も多くのスタッフやボランティアの協力、寄付や補助金等の助けを受けて、大きな変更や中断なく継続した送迎を行うことができた。
- ◆ 車両 8 台 (うち 6 台福祉車両) を使用しているが、平日の稼働台数は 6 台前後。送迎ニーズはあるがスタッフが不足している状況。

I-2. 【付き添いつきお出かけ送迎】



- ◆ 送迎利用者を対象とした、付き添いつきの「お出かけ」送迎を毎月一回実施した。
- ◆ 「出かける目的がない」「一人では出かけられない」「一緒に行く相手がいない」等の理由で、通院等の最低限の外出しか行っていない利用者が、送迎と付き添いを行うことにより、買い物や娯楽の外出を楽しめることを目的とした。
- ◆ 4年目となる2019年度は、月に一度順調に開催することができた。
- ◆ 利用者の認知度も上がり、毎月の開催を心待ちにする声も聞こえた。
- ◆ お出かけ内容に多様性を持たせることにより、できるだけ多くの利用者の関心を引き、多様な参加者が集まるよう工夫した。スタッフが積極的に車内で声がけを行い、利用者の気持ちを外出に向けさせるよう、気を配った。利用者から「誘ってもらえてうれしかった」との声もあった。
- ◆ 通常送迎のスタッフとは別の、お出かけ送迎のための外部ボランティアが中心メンバーとして積極的に関わるようになり、担い手のすそ野が広がった。

《付き添いつきお出かけ送迎実施状況》

4月	お花見（加瀬沼公園）	利用者 21 名	スタッフ 11 名
5月	整体・体操（やっぺすホール）	利用者 15 名	スタッフ 12 名
6月	ドライブ（雄勝ローズガーデン）	利用者 25 名	スタッフ 14 名
7月	音楽会（うめばたけ）	利用者 13 名	スタッフ 9 名
8月	買い物（イトーヨーカドー）	利用者 13 名	スタッフ 8 名
9月	墓参り	利用者 11 名	スタッフ 10 名
10月	整体・体操（うめばたけ）	利用者 8 名	スタッフ 11 名
11月	日帰り温泉（大崎市三峰荘）	利用者 20 名	スタッフ 16 名
12月	買い物（蛇田方面）	利用者 15 名	スタッフ 11 名
1月	カラオケ（中里パレード）	利用者 14 名	スタッフ 8 名
2月	きみまろ鑑賞（うめばたけ）	利用者 17 名	スタッフ 9 名
3月	墓参り	利用者 11 名	スタッフ 11 名
合計		147 名	130 名

I-3. 【ミニ生活支援】



- ◆ 暮らしの小さな困りごとに対応する「暮らしのお手伝い」を実施した。
- ◆ 2019 年度からは、5 月以降毎月 1~3 回ほど継続して実施することができた。
- ◆ 移動困難な状況の利用者の多くが、移動以外の暮らし全般にさまざまな困難を抱えている。特に、独居や高齢者のみの世帯で、ヘルパー等の手伝いを頼めない内容など、少しの手助けがあると生活がしやすくなる内容の手伝いを行った。
- ◆ 依頼のあった内容は、「庭の草取り」「枝払い」「エアコン掃除」「窓ふき」「お墓掃除」「電球交換」「菜園整備」「レンジフード・網戸清掃」など。
- ◆ 「ずっと気になっていたが、身体が悪くできずにいた。ほっとした。」等、すっきりした様子での喜びの声が聞こえた。

《暮らしのお手伝い実施状況》

4 月	1 件
5 月	5 件
6 月	7 件
7 月	3 件
8 月	8 件
9 月	5 件
10 月	3 件
11 月	3 件
12 月	5 件
2 月	1 件
3 月	2 件
合計	43 件

I-4. 【生きがい・交流ミニ菜園『レラ農園』】



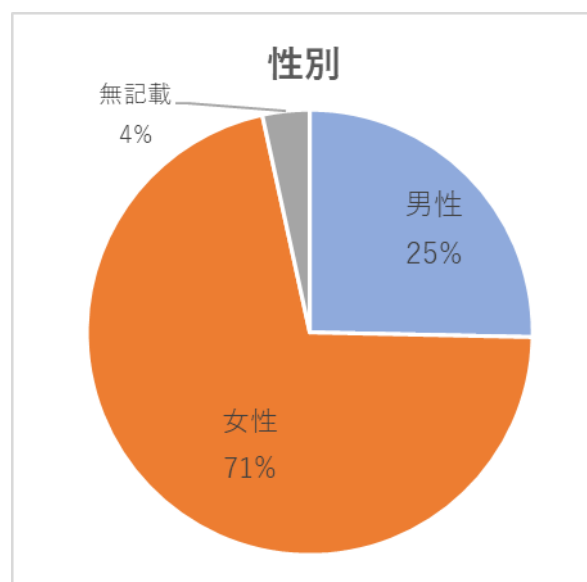
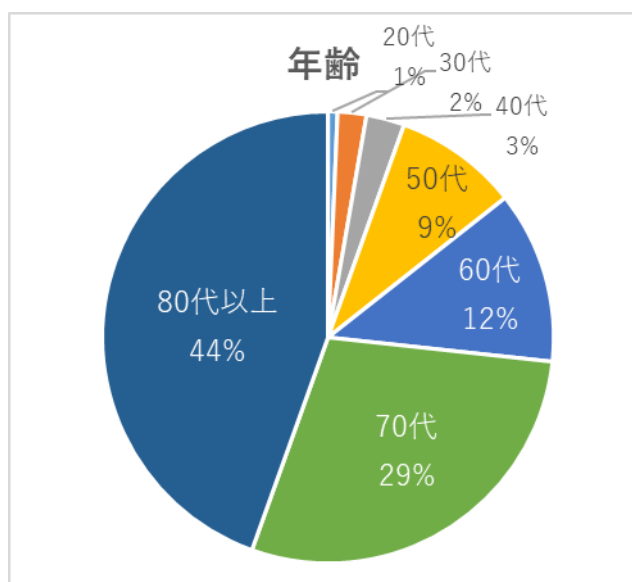
- ◆ 生活支援、お出かけ送迎の一環として、利用者の生活充実感向上やスタッフ・ボランティアとの交流のためのミニ菜園を開始した。

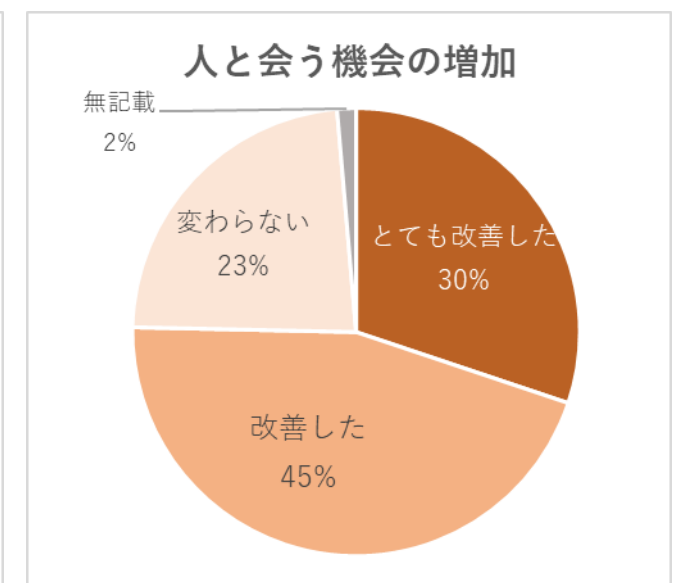
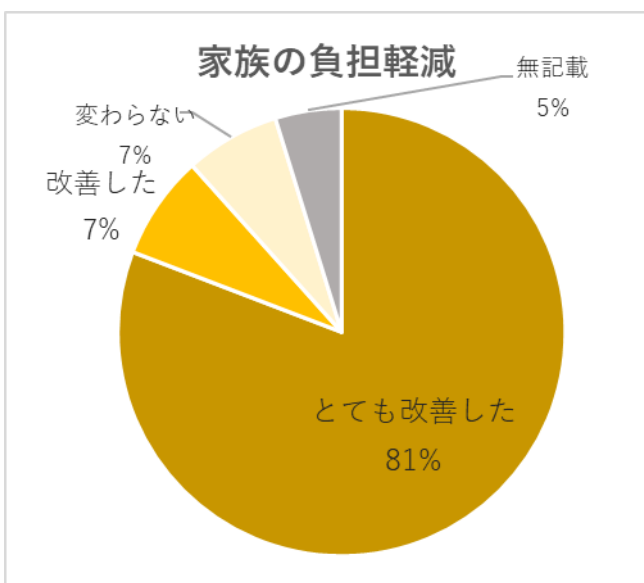
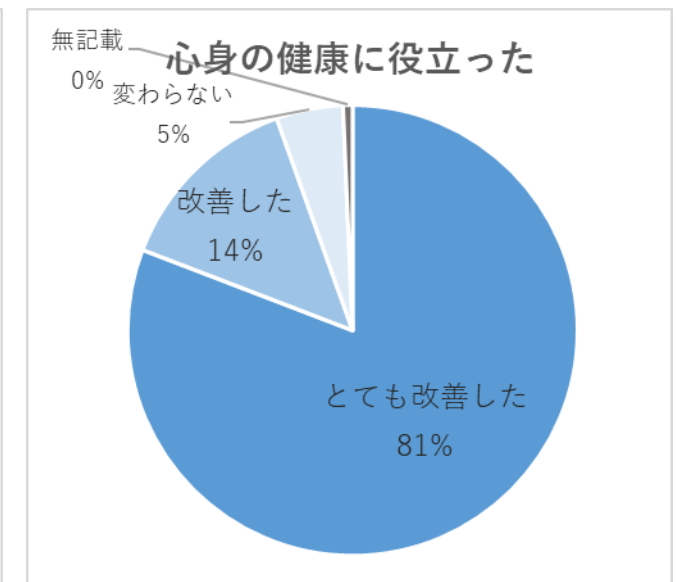
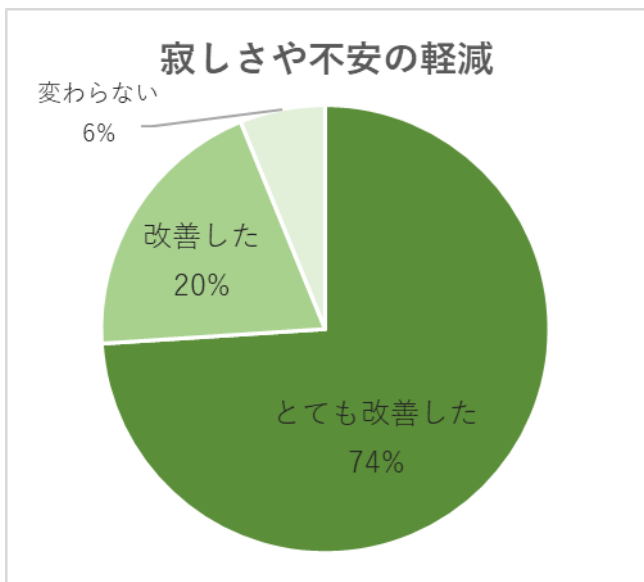
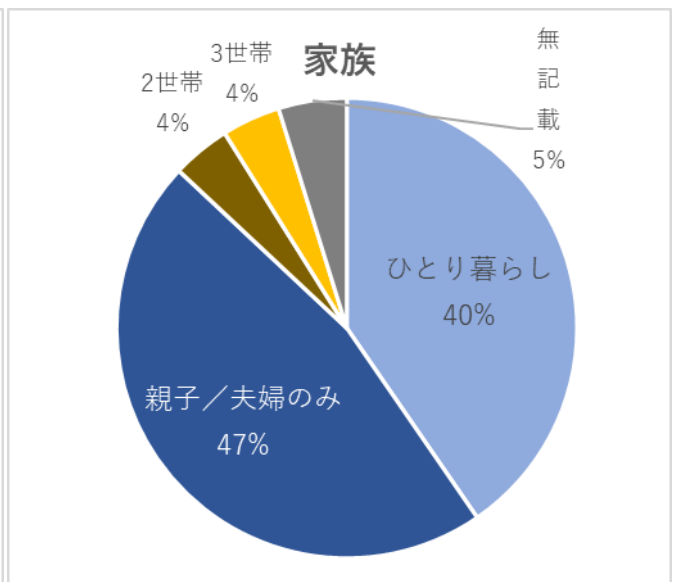
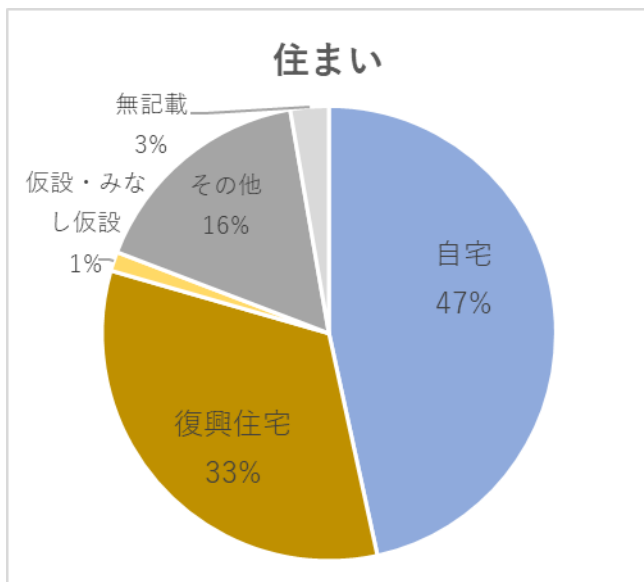
- ◆ 石巻市渡波幸町（ワタマスマイル所有）の市民農園を借り、レラのスタッフが中心となり、野菜や花、ハーブ等を植えた。通常の管理作業はスタッフが行い、月に数回、希望する利用者を畑に送迎し、農作業を手伝ってもらう。
- ◆ もともと畑作業をしていたが、体調不良や被災等によりその機会を失ってしまった利用者、外出の機会が少なく土いじりに関心のある利用者などを対象とした。
- ◆ 利用者は無理のない範囲で（見ているだけでも可）農作業を楽しみ、その日に採れた野菜は持ち帰ることができる。
- ◆ 担当スタッフも少しずつ経験を重ね、失敗も重ねながら、畑の管理を順調に行った。季節ごとに作業できる野菜や収穫できる野菜があるよう意識した作物を選んだ。

《レラ農園参加者数》	《生産品目	なす、ピーマン、ミニトマト、枝豆、大根、白菜、玉ねぎ カリフラワー、ブロッコリー、キャベツ、落花生、 じゃがいも等 《
5月	3名	
6月	5名	
7月	4名	
8月	4名	
9月	4名	
10月	5名	
11月	3名	
12月	2名	
1月	2名	
2月	2名	
3月	2名	
合計	36名	

【利用者向けアンケートの実施】

- ◆ 内閣府の依頼により、宮城県補助事業実施団体として利用者向けアンケート調査を実施した。
対象者：移動支援 Rera 送迎利用者 配布時期：2020 年 1 月～2 月 回収：146 通
配布方法：送迎時にドライバーから手渡し 回収方法：ドライバーへの手渡し または郵送
※トヨタモビリティ基金助成事業による別アンケート用紙と一緒に配布した。
- ◆ 集計結果（一部抜粋）





【自由記述】

・ 「通院の際に助かる」等の回答多数

「私の妻も高齢と病弱の為、通院が多く非常に助かっています。」

「レラの支援で通院出来るのでとてもありがたいです」

「病院とか具合悪い時などお願いいたします。時間などを融通してくれるので助かります。」

「レラを利用しているのはほとんど通院です。たまには買い物に行きたいです。レラさんの皆さんはとても親切で手助けになり本当に感謝、感謝です。これからも続けられますようお願いいたします。」

・ 「身体が不自由」「体調が悪い」等の回答多数

「これからますます年をとっていく、足の方も自由に歩けなくなる。」

「車イスでの生活なので、車いすごと通院出来るので、安心です。」

「腰足ひどく1人暮らしでお願いしたいです。」

「夫婦2人ぐらしで二人とも杖の生活なので 夫 83 才 妻 77 才です。本当に助かっています。ありがとうございます。」

・ 「スタッフが親切」「介助つきで助かる」等の回答多数

「レラの方は親切で時間通り来て頂いておりますのでとても助かっております」

「運転手さん達も大変やさしくしてもらっています。笑顔がすばらしく、お会いするたび ほっとします。本当にありがとうございます。これからも長くお願いします。」

「くらしの手伝い、買物等の際スタッフの方々が親切にしてくれるので助かっています。(車の乗降も)」

「レラさんに送迎してもらい、とても助かっています。色々な話を聞いてもらい気持ちが楽になります。これからもよろしくお願いします。」

「レラは家族以上に安心感がある」

・ 「家計が楽になった」等の回答多数

「家計も楽になり、身体も楽になり、レラさんの行事も楽しみです。早く又、花見に行きたいです。」

「大変助かっています。お金の面でもすごく助かって生活が楽になります。」

「家計が楽になった。運転してくれる人の気遣いに感謝！」

・ 買い物やその他の外出についての回答多数

「友達ができた。買い物にも利用でき楽になった」

「友達に会いに行けること。家計ももちろん助かります。」

「買い物など出かける機会が増えた」

「少し遠い所でも出かけたいと思った」

・ くらしの満足度の向上について

「心にゆとりが出来、いらいらしなくなった。」

「通院の中 友達にめぐり合い楽しみ」

「『帰りたくなったら電話して』の言葉に背中を押してもらい少しずつ外出先での単独行動に自信をつけ自分を取り戻すことができました。ありがとうございます！」

「出かけるのに楽しくなった事」

「家族の時間に余裕ができた」「子供への『気づかい』が少しへりました」

- ・ 活動の継続を望む声、心配する声

「出来るだけ長く続けてほしい。お願いします。」

「レラなくならないで下さい」

「私達は長年大変にお世話になっています。レラさんがいるから身体も心も楽に生活できています。レラさんが無くなったらどうなるんだろうと今から心配しています。本当に本当にありがとうございます。運転手さん達もえがお本当にありがとうね。花見早く行きたいです。」

「私達それぞれ被災に会い大変な思いで今日まで戦っている所以今後ともレラさんの手助けがあると助かりますので今後ともよろしくお願いします。」

「いまだに津波災害のあとが平常になりませんのでまだまだ支援して下さい。お願いします。」

- ・ 利用に関する要望等

「混んでいて利用できない時があります。付き添いの人が行けない場合付添ってくれる人がいれば助かるのですが、、、」

「2週間前に電話にも午前いっぱいと言われる事が多いです。帰りだけ利用する事が多かったです。」

「車の台数を増やしてほしい」

「病院の場合帰りが間に合わない時があります。又 三ヶ月に一度ぐらゐは外食したいのですが便宜をはかってほしい。タクシーでは1万ぐらゐかかるのでこの何年外食はなし」

「可能であれば、目が見えなくなってきたので予約の方法を工夫してほしい。」

- ・ 感謝の声が大半だった

「皆様の心あたたかい、気配りにとても感謝しております。ありがとうございます。これからも宜しくお願い申し上げます。」

「スタッフさんが親切で楽しくお話しもできる。」

「運転してくれる人がいないので大変助かります。移動支援してくれる人皆親切なので助かっています。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。」

「レラさんにはこれまでも何度も何度も助けて頂き、大変感謝しております。これからも継続して頂けたらと願います。」



II. 福祉有償運送事業

《IIの事業に要した費用》…

0千円

- ◆ 2019 年度は送迎をこれまで通りの道路運送法上「無償の範囲内」とされる実費以下の利用者負担による送迎として行ったため、福祉有償運送事業を行わなかったが、今後の実施に向けて、スタッフ研修での意見出し、石巻市役所との勉強会等を開催した。

III. 情報収集・調査・情報発信事業

《IIIの事業に要した費用》…

7,966千円

III-1. 【福祉送迎講習会】

- ◆ 前年度までの開催に倣い、移動支援の担い手育成、地域での助け合い送迎促進、地域の事業者やボランティアの送迎技術向上を目的とし、福祉車両等を使用した移動困難者の送迎や介助等を総合的に学ぶ講習会を実施した。
- ◆ 福祉車両の操作、運転技術講習、移乗・介助、接遇、リスク管理、防災等、福祉送迎をおこなうにあたり必要な知識や技術を学ぶプログラムを計画した。
- ◆ 全国および宮城県内で国土交通大臣の認定運転協力者講習を開催している講師を依頼した。
- ◆ 当団体のスタッフは、講師補助として技術提供や進行役などを担うほか、安全運転や実技実習ではプログラム作成から参加し、講習を行った。ほかのスタッフは自ら受講し、資格取得、意識や技術の向上に努めた。
- ◆ 前年度に引き続き、異なるプログラムによる年 3 回のシリーズ開催としたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、第 1 回目のみ実施となり、2 回目および 3 回目は 2020 年度に延期となった。



《講習内容》

第 1 回講習会

【日時】 2020 年 2 月 29 日（土） 10：00～16：00

【場所】 石巻市遊学館 大会議室

【講義内容】 ①移動サービスの種類 ②利用者心理と接遇 ③車いす操作とガイドヘルプ
④介助者の心構えとマナー

【講師】 関西 STS 連絡会：柿久保浩次氏

移動サービスネットワークみやぎ：坂井正義氏

【参加人数】 受講者 20 名

Ⅲ-2. 【他団体向け送迎技術研修】

- ◆ 利用者の送迎を行う団体の実習受け入れを行った。

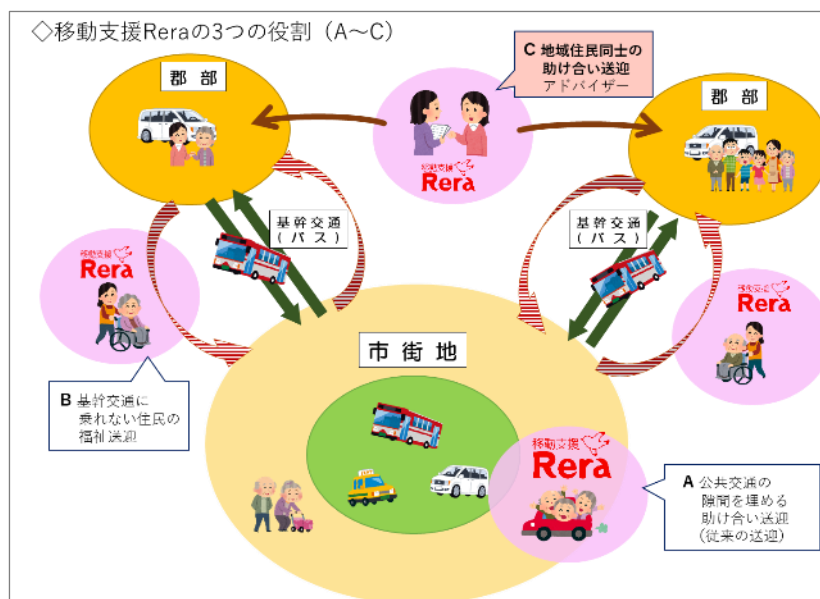
《送迎実技実習実施状況》

4月 1回

合計 1回

Ⅲ-3. 【宮城県石巻地域の移動困難者の実態調査・勉強会】

- ◆ トヨタモビリティ基金「地域に合った移動の仕組み作り」助成事業の一環として、マイカーを持っている住民、持たない住民、免許返納を考える住民等の実態と意識の調査を行った。
- ◆ アンケート用紙を配布する重点地区を3か所設定し、それぞれの地域づくり等の活動を行っている団体に協力を依頼し配布した。
 - ①石巻市山下地区…NPO 法人まちの寄り合い所うめばたけ、山下地区まちづくり協議会等
 - ②石巻市北上地区…一般社団法人ウィーアーワン北上等
 - ③石巻市桃生地区…一步を楽しむ石巻、桃生地区社会福祉協議会、桃生地区民生委員等
 - ④移動支援 Rera 利用者
- ◆ アンケートの作成、集計、報告書作成等は、いわて地域づくり支援センターに依頼した。
- ◆ アンケート作成に先立ち、調査の仮説を立てるために、当団体が今後目指す送迎の姿や地域における役割等を検討し、整理を行った。



Ⅲ-4. 【公共交通利用促進のためのウェブサイト構築】

- ◆ バスや列車など公共交通の利用経験が少ない住民などを対象に、公共交通を活用した便利な生活を送ってもらうことを目的として、バス路線の情報提供ウェブサイトの更新を行った。
- ◆ これまでに引き続き、青い森ウェブ工房に委託し、路線情報や時刻表の更新を行った。
- ◆ 2019年度はウェブサイトの本格運用、広報を積極的に行う予定であったが、情報の更新にとどまった。次年度以降に向けた課題となっている。

IV. 住民同士の交流・親睦事業

《IVの事業に要した費用》… 0 千円

2019 年度は事業を行わなかった。

V. その他の事業

《Vの事業に要した費用》… 650 千円

V-1 【外部協力者と連携した組織基盤強化】

- ◆ 2019 年度も組織づくりと運営を考える場として、月に一度のスタッフ研修を活用した。
- ◆ アドバイザーに引き続き地域社会デザイン・ラボの遠藤智栄氏を招き実施した。
- ◆ 事業の役割分担、進捗確認、意見交換やアイディア出し、安全運転講習、課題解決に向けた話し合いなどを行った。
- ◆ 普段の送迎業務から離れて事業全体を考え、運営上の課題を共有する重要な役割を担っている。



VI. 運営に関する報告

移動支援 Rera 会員数

正会員	16 名	(前年同数)
賛助会員	65 名	(前年同数)

寄付・寄贈

- ◆ 2019 年度受取寄付金 12,572,167 円 (前年比 +231,868 円)
- ◆ 2019 年度寄付件数 300 件 (前年比 ▲40 件)

※チズホワイト基金より 2020 年度分として受け取った寄付金は除いて記載 (次年度計上)

以上